

## レンジャーコラム① 消える花 蘇る花

春の植物が次々に咲き始めるこの季節、高尾山とその周辺では、多くの方たちが春植物を求めて足を運びます。



自生するタカオスミレ



高尾山と周辺地域に訪れる方たち

一方、高尾山とその周辺地域で観察者が増えるとともに、撮影目的により、野草の生育地に足をかけてしまう、または登山道を逸脱してしまうケースが多く見られることがあります。「私ひとりくらい」と誰か一人が道を外すと、そこに踏み跡がつき、「ここに踏み跡がある、何かあるぞ」と、別の方たちが次々に続いていきます。こうした利用者の多い場所では踏み込みの繰り返しで新たな道ができ、やがてその道は観察路のようになってしまいます。その結果、野草の自生地で裸地化が進んでいくのです。



撮影目的による斜面への踏みこみ



踏み込みにより傷んだ植生

こうした状況の中、私たち東京都レンジャーは、①踏み外しをしないようにマナーをよびかける、②踏み込みの起こる所にはマナー看板を立てる、③ロープ柵の設置や石などを並べて登山道の境界を明瞭化させる、などの対応を行い、サポートレンジャー（ボランティア）とも連携をしながら活動を続けてきました。



登山道外の方へ声がけに向かうレンジャー



サポートレンジャーによるマナー呼びかけ



ふみこみを“踏み留める”サイン

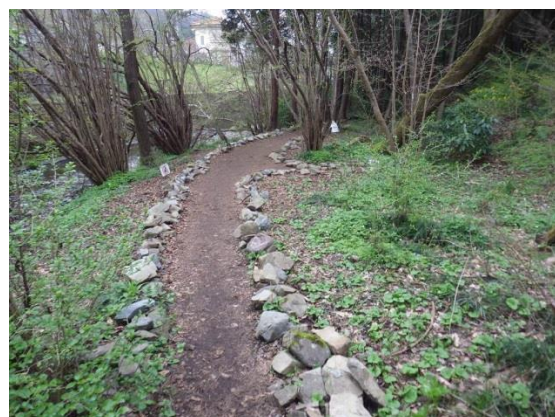


踏み込みを控えて撮影する利用者

地道な活動の中、数年の間で目に見えて効果が見えている場所も一部ではあります。しかし、それでも踏み込みが起こる前の状態にまでには至っていません。それだけ植物は人による踏み付けの影響を受けやすいのです。



石積み直後の状況（2014年3月）



石積みから2年後の状況（2016年4月）

美しい自然を身近に感じさせてくれる高尾山の自然。今後ともそうあるためには、歩道や看板の整備だけではなく、観察・撮影をされる側の方たちの配慮・意識が不可欠です。もし、それが無くなってしまえば、いずれその花は消えてゆくのかもかもしれません。撮影や観察の際に一呼吸おいて、足もとをご覧になってみてください。皆さんの配慮で、来年も美しい花たちが、きっと私たちを迎えてくれるはずです。